

2

マネジメントビジョン2050に向けての現状と課題

(1)

まんのう公園の概要及び基本計画等

まんのう公園の概要

項目	内容
名称	国営讃岐まんのう公園
種別	イ号国営公園 (都市公園法第2条第1項第2号)
所在地	香川県仲多度郡まんのう町吉野4243-12
事業着手年度	昭和59年度
供用開始年度	平成10年度（平成25年度全面供用開始）
公園管理者	四国地方整備局
敷地面積	約350ha（対象敷地は令和6年4月現在の供用区域の面積）
概要	日本最大の灌漑用のため池である満濃池に隣接する、四国で唯一の国営公園
入園者数	開園（平成10年度）から令和5年度までの入園者数の累計は約1086万人。 新型コロナ前の7年間は平均53万人/年、令和5年度は約49万人程度。

基本理念

- 本公園は、空海（弘法大師）が一つの偉業として後世に遺した満濃池とその周辺の豊かな自然、そして彼を生んだ四国の文化的土壌を活かし、高度成長の中で、ともすれば失われがちな自然・宇宙といった生存基盤との直接的交流をはぐくむものとする。

基本テーマ

- 「人間との語らい、自然・宇宙とのふれあい」

基本方針

- ① 子供から大人まで四季を通じて多様なレクリエーション活動が行える公園とする。
- ② 計画地の特性や地域の文化、歴史、風土等を生かした四国らしい公園とする。
- ③ 四国地域の人々の日帰り利用を主体とするが、滞在型の利用や四国を訪れる観光客の利用もできる公園とする。
- ④ 公園の豊かな自然とのふれあいや様々なレクリエーション活動、イベントを通じて、豊かな人間形成に役立つ公園とする。

年間の主要イベント

- 広々とした空間や、色とりどりの花木を生かした四季イベントを開催している。
- 中四国最大級の音楽フェスである「MONSTER baSH（モンスターバッシュ）」や「四国B級ご当地グルメフェスタ」なども開催されている。



公園の位置

4月	5月	6月	7月	8月	9月
春らんまんフェスタ 	あじさいまつり 	あじさいまつり 	サマーフェスタ 	サマーフェスタ 	秋！色どりフェスタ
10月	11月	12月	1月	2月	3月
秋！色どりフェスタ 	ウインターファンタジー 	ウインターファンタジー 	リレーマラソン 	早春フェスタ 	早春フェスタ



モンスターバッシュ



四国B級ご当地グルメフェスタ

まんのう公園のゾーンの概要

まんのう公園では、以下の6つのゾーン（中央広場ゾーン、健康ゾーン、自然活用ゾーン、宿泊ゾーン、湖畔ゾーン、環境保全ゾーン）を設定しています。

ゾーニング図



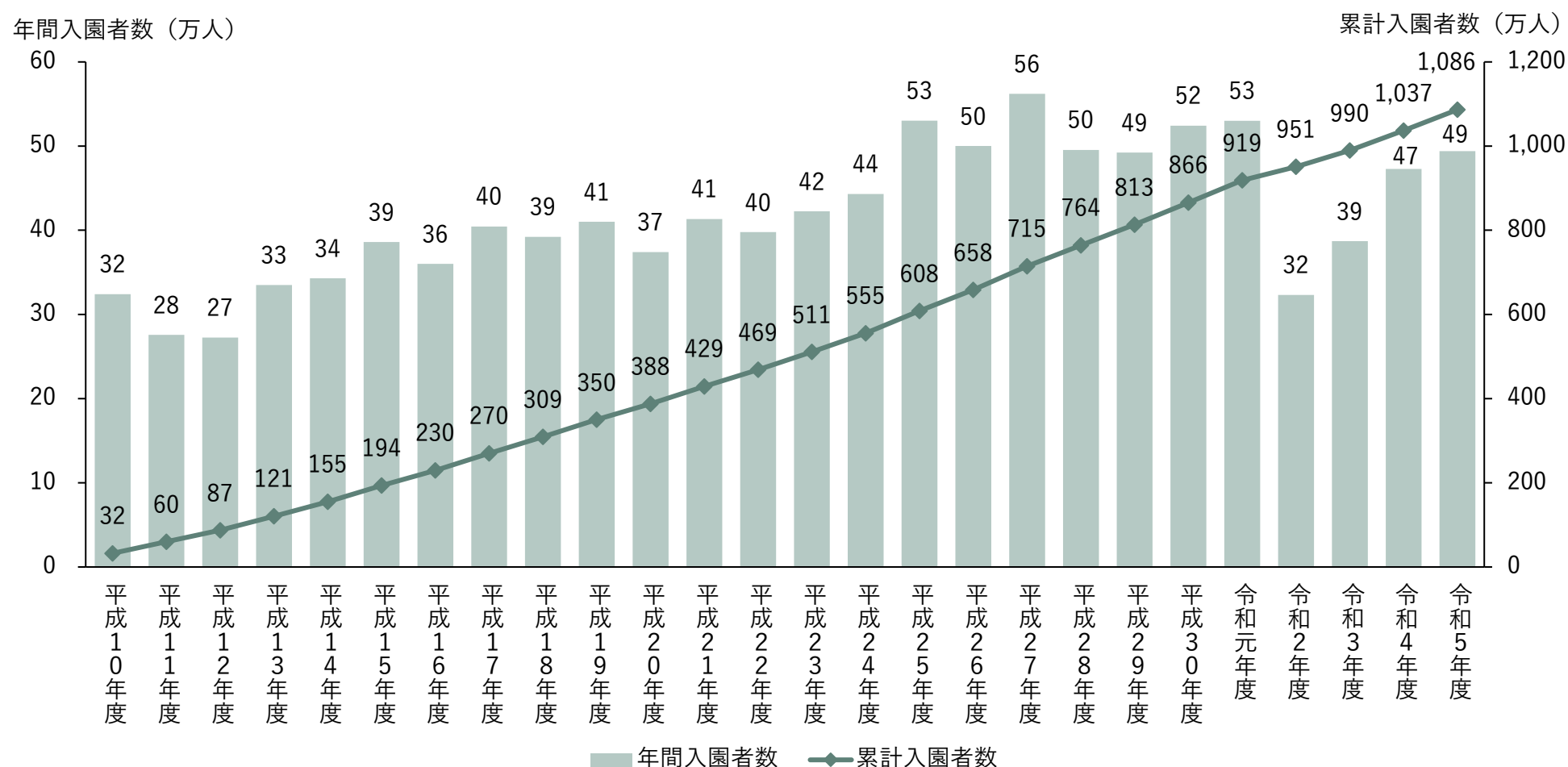
各ゾーンの概要

ゾーン名	各ゾーンの概要
中央広場ゾーン	本公園の中心であり、入口らしさの演出の他、様々なイベントのできる芝生広場、数多くの花や遊具を主体としたファミリー利用型の誰でも手軽に利用できるゾーン（32.9ha）
健康ゾーン	四国有数の花・紅葉風景の中で、子どもからお年寄りまで、自分に合った心身の健康づくりができるゾーン(34.0ha)
自然活用ゾーン	自然生態園を中心とした四国らしい里山環境や豊かな自然環境の中で自然観賞、レクリエーション活動、持続可能な社会づくりについての体験・学習ができるゾーン(84.6ha)
宿泊ゾーン	最大106家族収容可能な四国最大級のオートキャンプ場で、ファミリーや団体で利用できるキャビン、カーサイト等の宿泊機能を備えたゾーン（18.2ha）
湖畔ゾーン	満濃池周辺の自然環境を保全・活用しながら、地域固有の景観である満濃池や象頭山を眺め、空海の事跡やため池のある中讃地域の自然環境に触れるゾーン(2.0ha)
環境保全ゾーン	公園外延部及びゾーン間の緩衝樹林帯など、主に自然環境の保全を目指すゾーン（178.3ha）

入園者数の推移

本公園の入園者数は、全面供用した平成25年度以降、年間約50万人で推移しています。令和2、3年度は新型コロナウイルスの影響により減少しましたが、令和4年度には47万人が入園し、累計入園者数は1,000万人に到達しました。

開園からの入園者数の推移



まんのう公園の基本計画

まんのう公園の基本計画においては、以下の基本理念及び基本方針が定められており、現在もこれに基づいて、公園づくりを進めています。本ビジョンは、基本計画における基本理念及び基本方針の実現にも資するものとして、策定しています。

基本理念及び基本方針

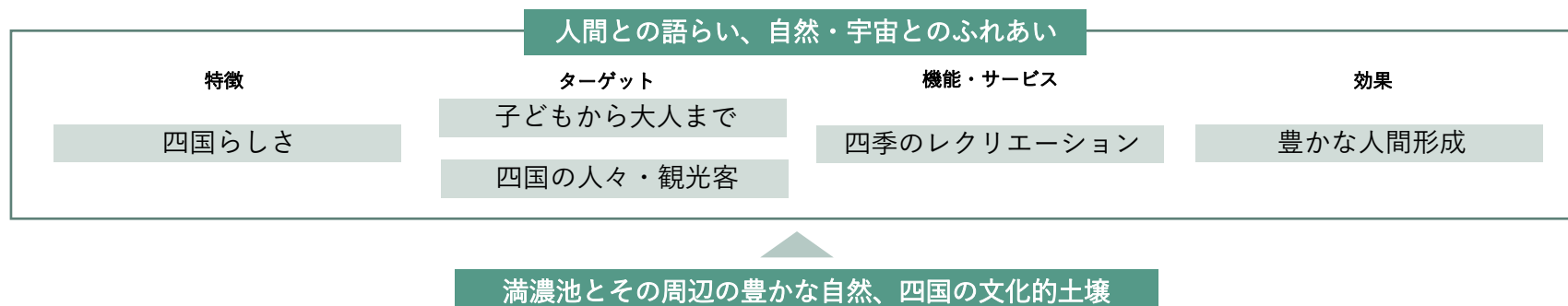
基本理念

本公園は、空海（弘法大師）が一つの偉業として後世に遺した満濃池とその周辺の豊かな自然、そして彼を生んだ四国の文化的土壌を活かし、高度成長の中で、ともすれば失われがちな自然・宇宙といった生存基盤との直接的交流をはぐくむものとし、その基本テーマを「人間との語らい、自然・宇宙とのふれあい¹」とする。

基本方針

- ア) 子供から大人まで四季を通じて多様なレクリエーション活動が行える公園とする。
- イ) 計画地の特性や地域の文化、歴史、風土等を生かした四国らしい公園とする。
- ウ) 四国地域の人々の日帰り利用を主体とするが、滞在型の利用や四国を訪れる観光客の利用もできる公園とする。
- エ) 公園の豊かな自然とのふれあいや様々なレクリエーション活動、イベントを通じて、豊かな人間形成に役立つ公園とする。

基本理念・基本方針の構成要素



出典：国営讃岐まんのう公園基本計画書（昭和60年策定、平成17年改定）

1：「宇宙とのふれあい」とは、弘法大師（空海）が説いた「自己と宇宙の同一性を発見すること」の大切さを表現した言葉です。利用者が五感で自然を体感し、自己への理解を深めることのできる公園になることを掲げています。

(2)

まんのう公園が果たしてきた役割と公園の活性化に向けた課題

地域活性化への貢献

まんのう公園は、その存在と多彩な取組により地域に様々な効用を発揮しており、ステークホルダーに対して公園の価値を発信していくことが重要です。

また、一方では、大型イベント時（イルミネーション、音楽フェス等）の道路渋滞等により、地域住民の生活に支障をもたらす一面もあるため、今後の利用拡大を図る中で、周辺自治体や地域住民との相互理解を一層深めていくことが課題となります。

公園による周辺地域への主な効果（ストック効果）

- 地域の活性化、観光振興への貢献
- 地域の歴史、文化、自然等の情報の発信
- スポーツを通じた交流機会の提供、健康増進
- 里山文化を伝える上でも重要な自然環境の提供、里山で長く営まれてきた地域文化を継承していく場の提供
- 動植物の生態や生息環境等を学ぶ機会を提供し、身近な自然環境の保全意識を高める場
- 広域防災拠点としての機能と、利用者の一時避難地やまんのう町の予備的避難場所としての対応



ウィンターファンタジー



地域の伝統芸能「獅子舞」の実施



トレイルフェスタ



里山伝承体験教室



シイタケの菌打ち体験



里山の生きものにふれあう
ガイドウォーク

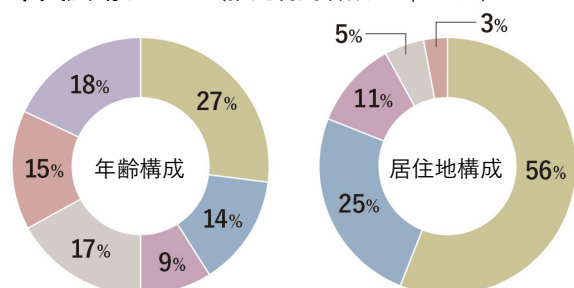


災害発生時の訓練実施

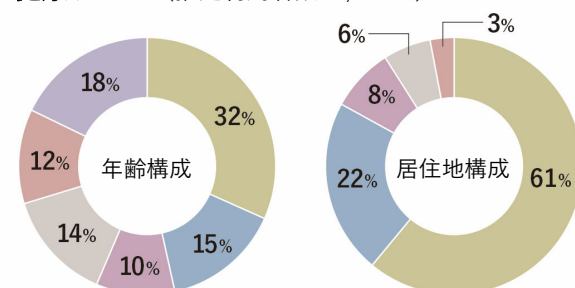
各ゾーンにおける利用状況

園内の各ゾーンにおいて利用状況が異なり、特に自然活用ゾーン、湖畔ゾーン、環境保全ゾーンでは、高齢者・県内の利用が多い傾向にあります。今後、満濃池や地域と連携した公園のブランディングにより、集客力を高めることが課題となっています。また、各ゾーンの特性を活かした消費機会の提供も課題となっています。

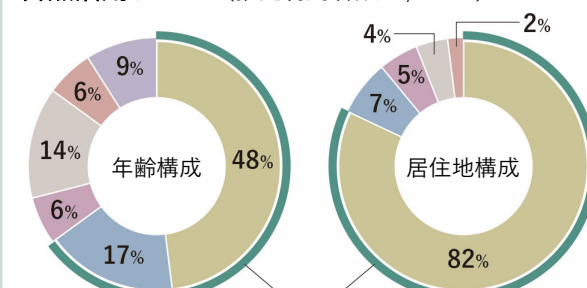
中央広場ゾーン（推定利用者数280,351人）



健康ゾーン（推定利用者数98,452人）

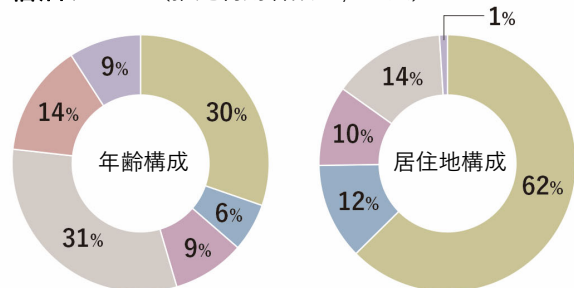


自然活用ゾーン（推定利用者数34,071人）

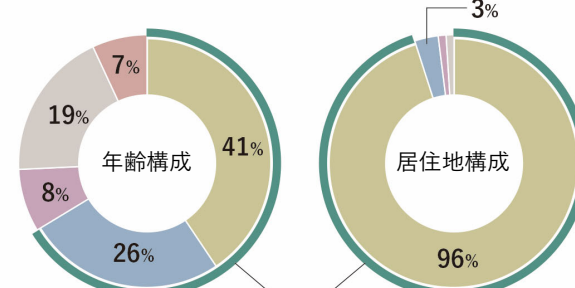


高齢者・県内の利用が多い

宿泊ゾーン（推定利用者数17,299人）

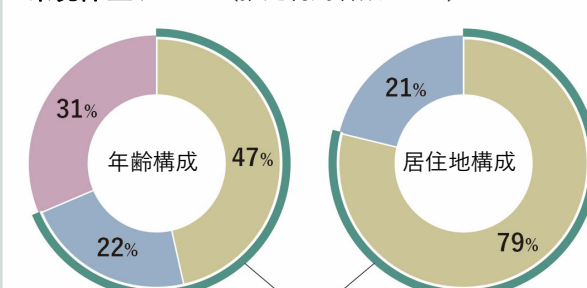


湖畔ゾーン（推定利用者数3,046人）



高齢者・県内の利用が多い

環境保全ゾーン（推定利用者数529人）



高齢者・県内の利用が多い

【凡例】



※10代は対象外。

※訪日外国人は対象外。

携帯電話端末のGPS位置情報から取得した利用者データより分析

データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

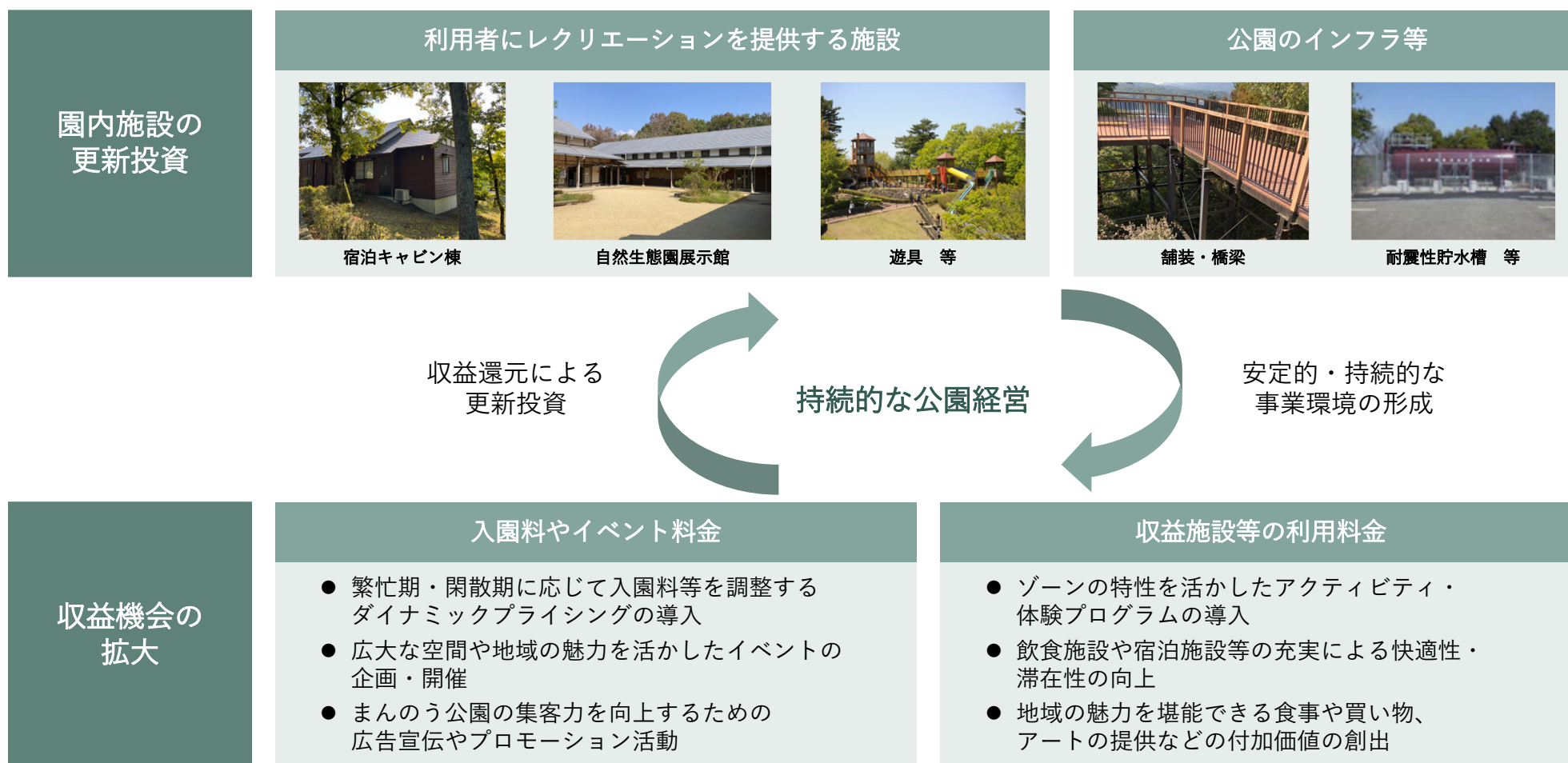
位置情報取得期間：令和5年1月～12月の1年間

※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計

持続的な公園経営に向けた更新投資

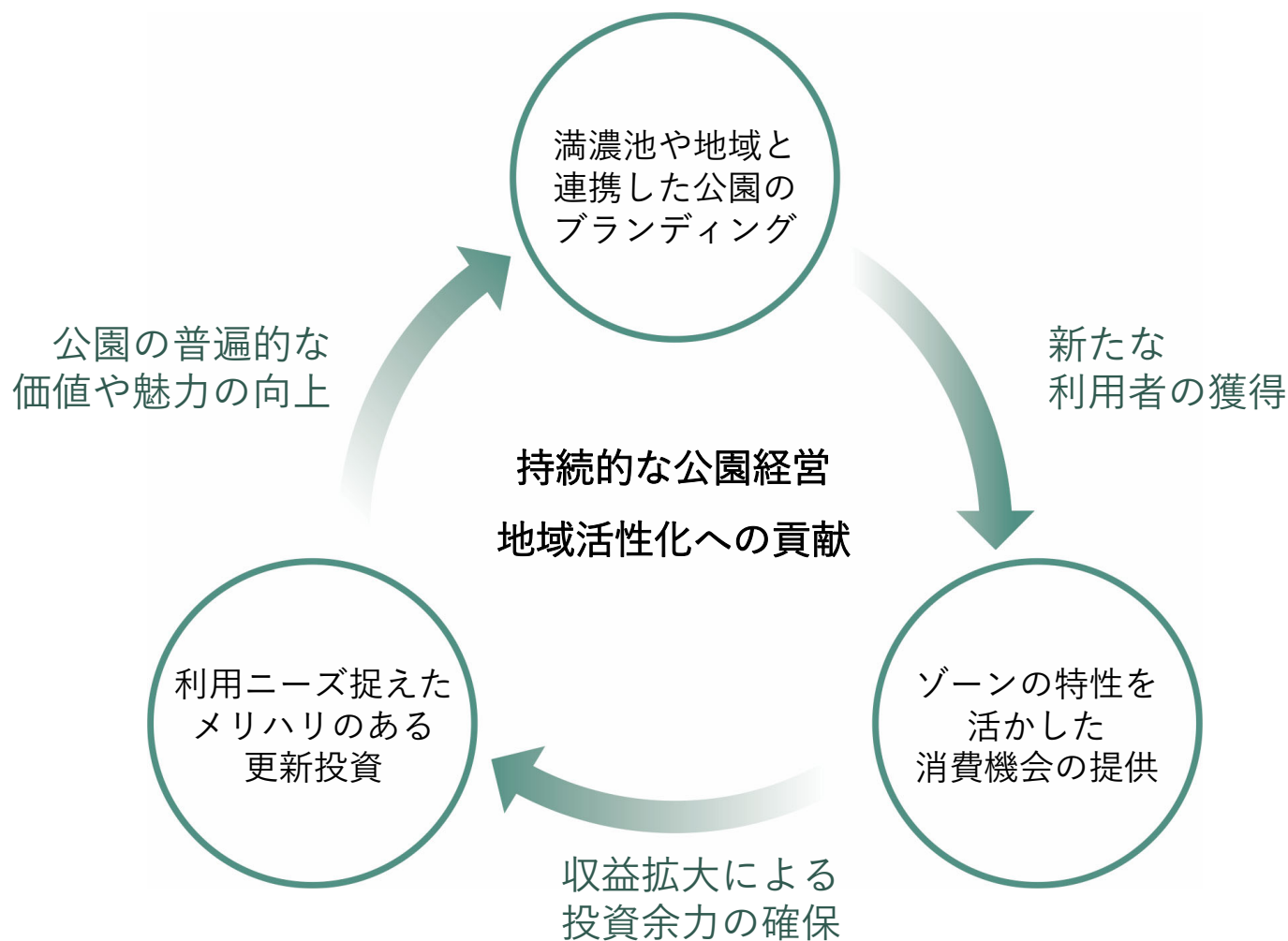
これまで国営公園の園内施設の更新投資は主に国費によって行われてきましたが、公園の概成に伴い、国費による積極的なバリューアップ投資は難しくなりつつあります。

今後、持続的な公園経営を実現するためには、入園料やイベント料金、収益施設等の利用料金等の収益機会を拡大すると共に、それらの収益を還元することによって、利用ニーズを捉えたメリハリのある更新投資を行っていくことが、課題となっています。



公園の活性化に向けた課題

満濃池や地域と連携したブランディングや、ゾーン特性を活かした消費機会の提供により、集客力及び収益性の向上を図ることを目指します。また、得られた収益をメリハリのある更新投資に充当することで、持続的な公園経営や地域活性化への貢献に向けた好循環を形成することを目指します。



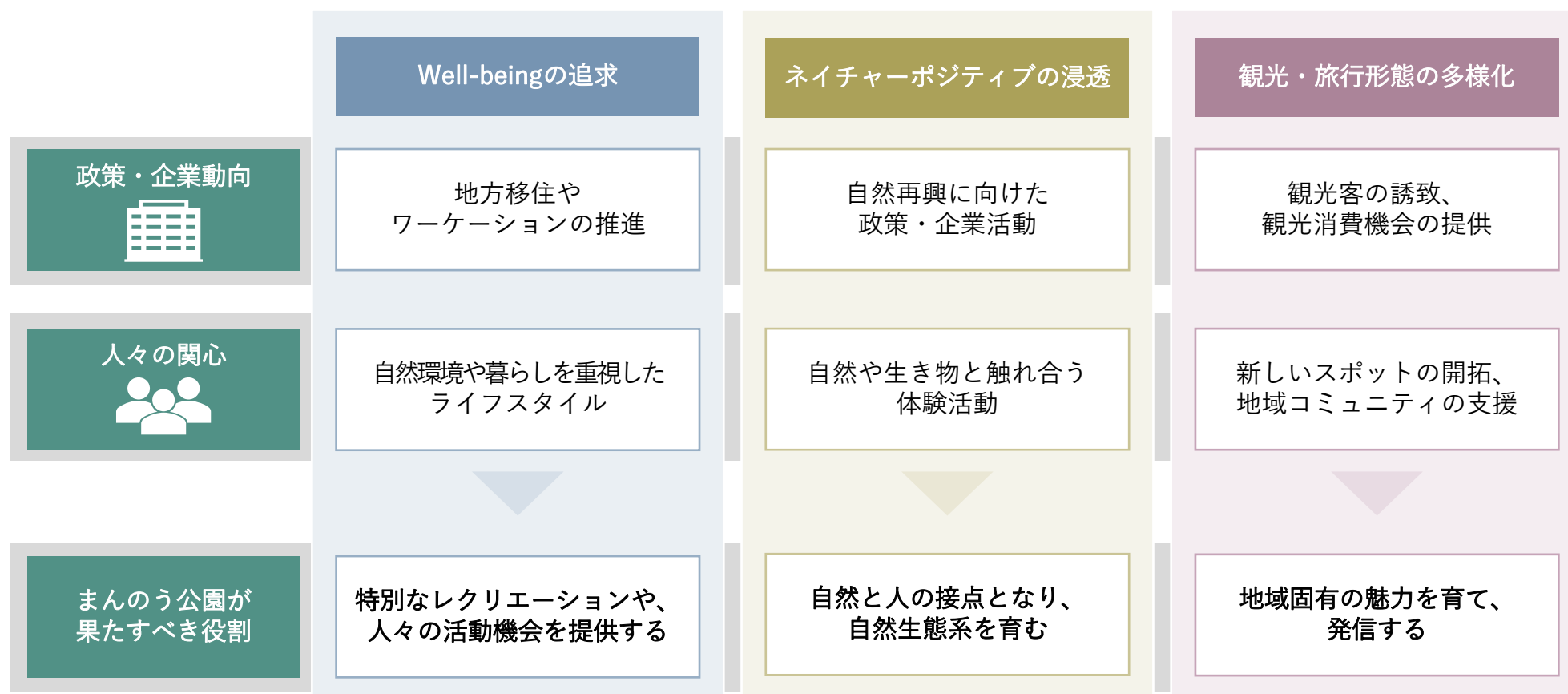
(3)

まんのう公園を取り巻く社会情勢と公園が果たすべき役割

まんのう公園が果たすべき役割

まんのう公園を取り巻く社会情勢を踏まえ、①特別なレクリエーションや、人々の活動機会を提供する、②自然と人の接点となり、自然生態系を育む、③地域固有の魅力を育て発信する、という3つの役割を果たしていくことが重要であると考えます。

まんのう公園を取り巻く社会情勢

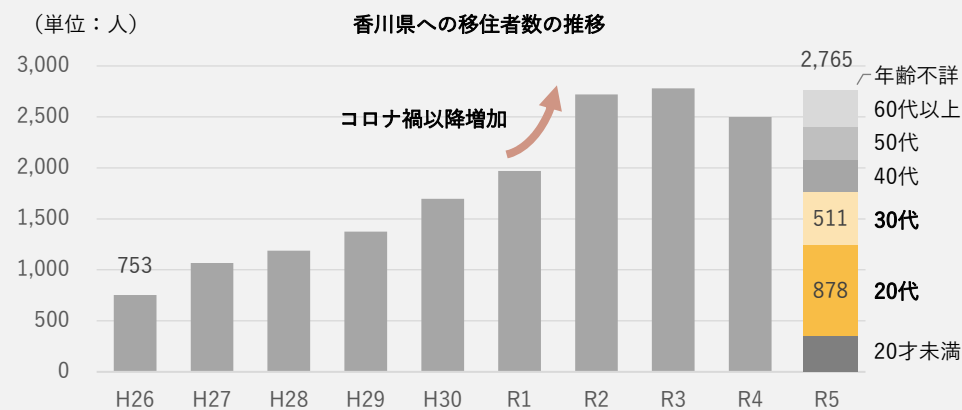


Well-beingの追及

Well-being¹を追求し、自然豊かな環境や生活重視のライフスタイルを求める人々が増えています。
 コロナ禍以降は、ワークスタイルも多様化し、地方移住やワーケーション等に関する地方自治体の取組も活発化しています。

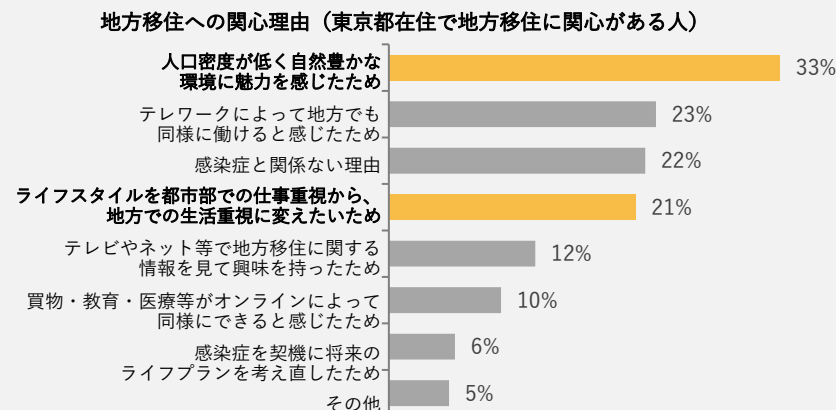
香川県への移住者の増加

✓ コロナ禍以降、香川県への移住者が増加傾向（20・30代が多い）。



Well-beingへの関心の高まり

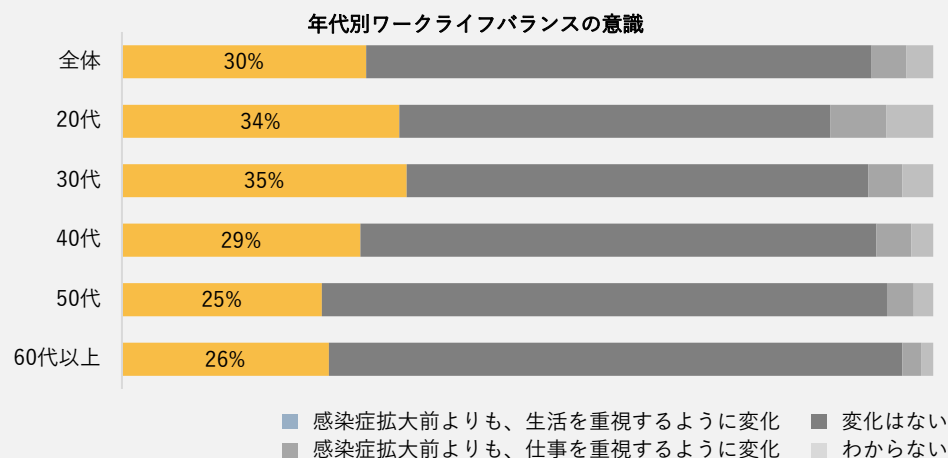
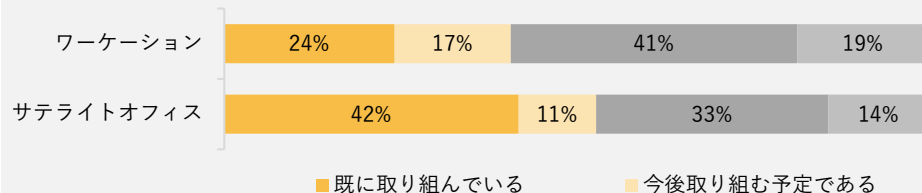
✓ 自然豊かな環境、生活重視のライフスタイルへの関心が拡大。



四国圏におけるワーケーション等の推進

✓ 四国圏全域で、ワーケーション等の誘致が盛ん。特に、徳島県では、「徳島アワーケーション（阿波×ワーケーション）」を積極展開。

四国91町村のサテライトオフィスとワーケーションの誘致に向けた取り組み状況（2022）



出典：香川県(2024)「令和5年度の移住者数・移住相談件数について」より作成（左上図）
 四国経済連合会(2022)「サテライトオフィス・ワーケーションが地域を変える ～テレワーク時代における企業や人の誘致～」（左下図）
 内閣府(2023)「第6回 新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」（右図）
 1：Well-beingとはいわゆる「生活の質」であり、本ビジョンでは「身体的、精神的、社会的に『良い状態』であること」を表す概念として用いています。

特別なレクリエーションや、人々の活動機会を提供する

広大な空間や豊かな自然を活かした特別なレクリエーションにより、利用者に活力を与えるとともに、公園運営に関わる人々にも多彩な園内活動の機会を提供します。これにより地域の人々が誇りに思えるような公園になることを目指します。

「Well-beingの追求」に対応して、まんのう公園が果たすべき役割

利用者への特別な レクリエーションの提供

- 満濃池の景観や大規模な花修景を活用して、ここにしかない特別な体験を提供し、利用者の幸福度を高める。
- オンツツジに象徴される郷土の自然や四季との触れあいを通じて、自分自身を見つめなおす機会や社会生活を営む上での活力を与える。



公園内の活動者への 多彩な活動機会の提供

- 運営・イベント・ボランティア等の多彩な活動を通じて、たくさんの活動者が、自然や人と触れ合いながら、いきいきと過ごすことのできる場所となる。
- 地域の医療・福祉・教育団体等と連携し、幅広い年代の人々のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上につながる活動を促進する。



逆様池の植物保全のためのジュンサイの間引き¹

地域の人々にとって 誇りに思える場所になる

- 地域の伝統行事や学校行事の場として、公園を活用し、地域の人々の思い出や愛着を育む。
- 地域固有の自然・歴史・文化を、国内外の観光客に発信できる拠点となることで、地域の人々の誇りを形成する。



出典：まんのう町HP（右下写真）

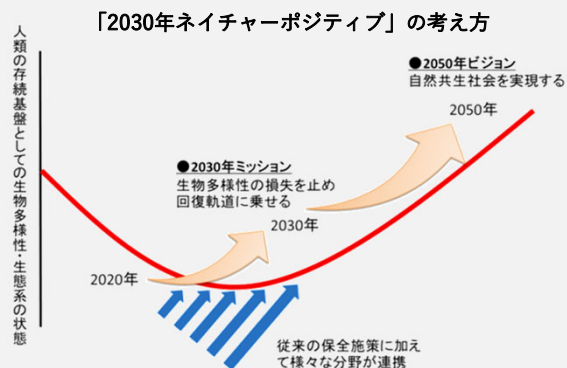
1：逆様池内において池一面を覆いつくすジュンサイを除去し、水中の光量を確保する植物保全活動です。（現在は、ジュンサイの生育状況が変化したため、活動内容も変化しています。）

ネイチャーポジティブの浸透

自然生態系を回復軌道に乗せるネイチャーポジティブ（自然再興）の考え方が、世界共通の目標として浸透しつつあります。また、子どもたちの健全な成長・発達に寄与するような、自然（山や森）や生き物（動物や花）と触れ合う体験活動が必要とされています。

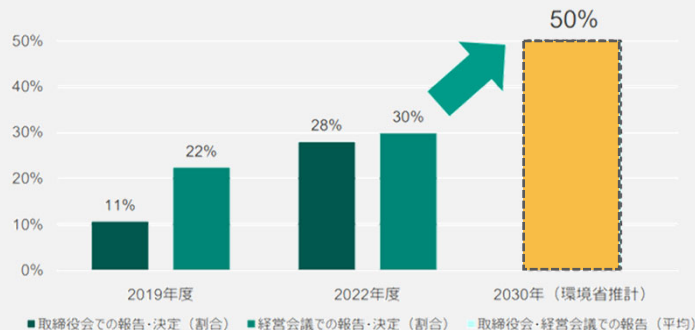
ネイチャーポジティブに向けた政策目標・企業活動

- ✓ 2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復軌道に乗せることが世界共通の目標として浸透。



- ✓ 多くの大企業が、生物多様性を重要な経営課題として認識。

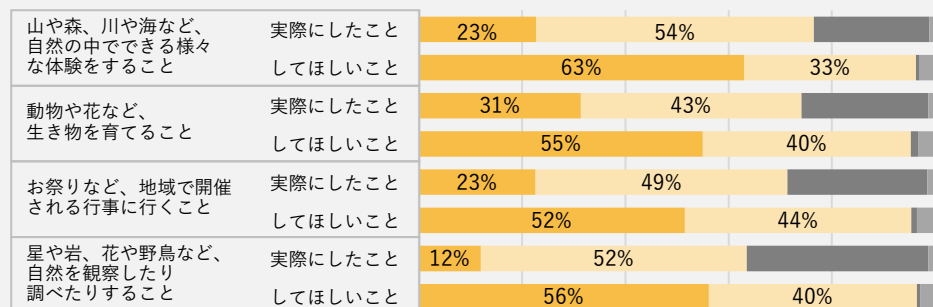
取締役会や経営会議で生物多様性に関する報告や決定がある企業会員の割合¹



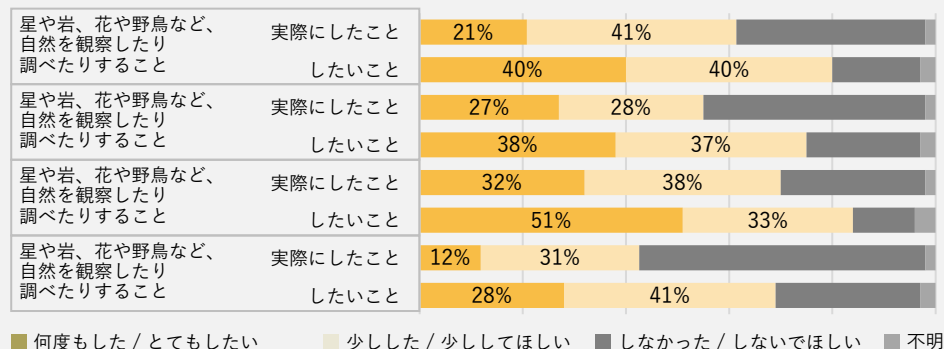
自然と触れ合う体験活動の必要性

- ✓ 生徒自身や小学生の保護者の多くが、自然（生き物等）との触れ合いや地域の行事に参加する体験を求めている。

1年間の学校外での体験活動（小学生の保護者の回答）²



1年間の学校外での体験活動（中2、高2の回答）²



出典：環境省（2022）「次期生物多様性国家戦略素案」（自然環境部会 生物多様性国家戦略小委員会（第4回）配布資料1-3）（左上図）

環境省自然環境局（2024）「ネイチャーポジティブ経済移行戦略 参考資料集」（日本経済団体連合会（2023）「企業の生物多様性への取組に関するアンケート調査」結果を基に環境省が作成した資料）（左下図）

国立青少年教育振興機構（2024）『「青少年の体験活動等に関する意識調査報告書」（令和4年度調査）（令和6年3月発行）』を基に作成（右下図）

1：日本経済団体連合会（2023）「企業の生物多様性への取組に関するアンケート調査」結果を基に環境省が作成した資料です。

2：小数点以下を四捨五入しています。

自然と人の接点となり、自然生態系を育む

満濃池は、遥か昔から、降雨の少ない讃岐の地に命の水を供給してきました。その満濃池に隣接するまんのう公園においては、山や水の恵みや人々の感謝の念、自然と共生した里山の暮らしを人々に伝えていく役割があります。

「ネイチャーポジティブの浸透」に対応して、まんのう公園が果たすべき役割

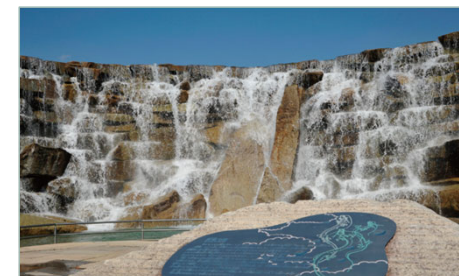
讃岐の山の恵みや、
山と人の関係を紐解く

- まんのう公園は、平野部と山岳部の境界にあり、満濃池は、山の水を平野の農地に供給してきた。
- まんのう公園の南東にある中寺廃寺跡¹からは古来における山と人との関係を窺い知ることができる。
- 山の恵み、山と人の関係を紐解き、現代に伝える。



降雨の少ない讃岐地方に
おける生命の水への
感謝を表現

- 日本最大級の貯水量を誇る満濃池は、降雨の少ない香川県の農業の発展を支えてきた。
- まんのう公園のシンボルでもある昇竜の滝や、園内に点在するため池を活用し、訪れる人に水への感謝の念を思い起こさせる。



自然と共生する
里山の暮らしを
現代の人の手で伝承

- 自然生態園やさぬきの森では、多くのボランティアが希少種の保護や環境学習活動に携わっている。
- 自然と共生する里山の暮らしを人の手で再興するとともに、体験プログラムを通じて、多くの人に自然との共生の素晴らしさを体感してもらう。



1：讃岐山脈の山中にある山林寺院跡で、国の史跡に指定されています。

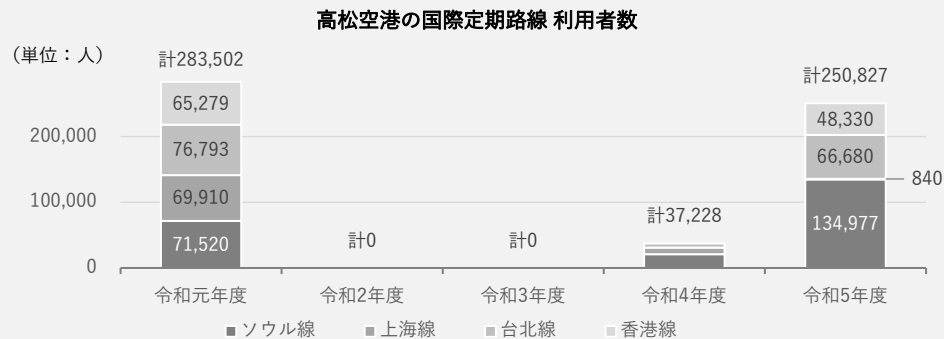
出典：まんのう町提供資料（右上写真）、四国八十八景HP（右中写真）

観光・旅行形態の多様化

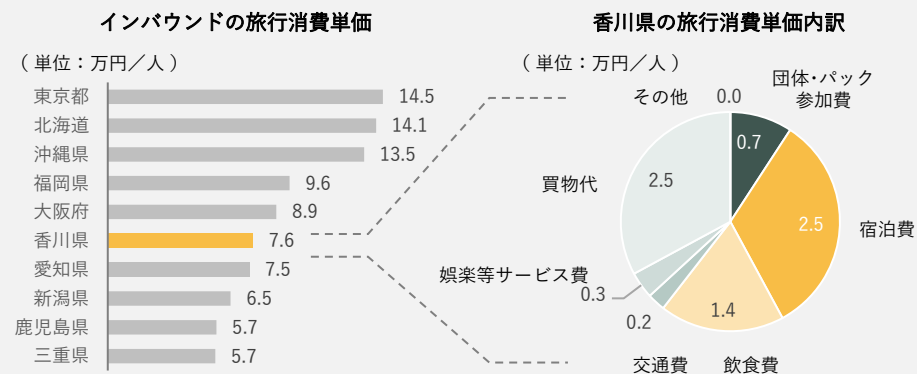
香川県では、国際定期路線の利用者数が回復し、インバウンドの旅行消費単価も高いことから、経済効果が期待されています。インバウンドをはじめとして、地域コミュニティの支援や新しいスポットの開拓などのニーズがあり、観光・旅行の受入側も、これらのニーズに対応することが必要となっています。

高松空港の国際路線利用者数の増加

✓ R4 から高松空港国際線の運航が再開（ソウル便はコロナ前以上）。

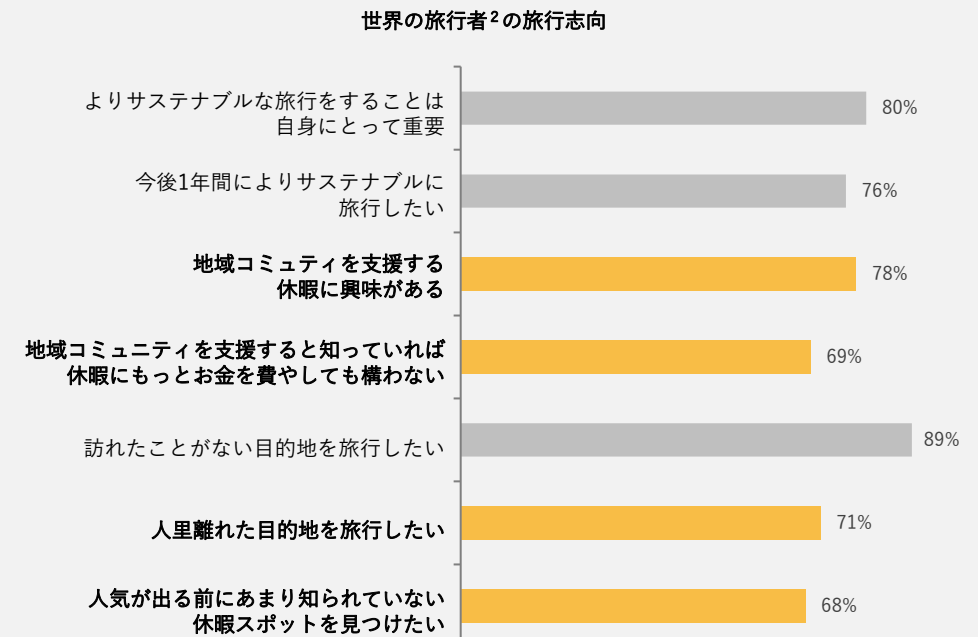


✓ 香川県は、全国の中でもインバウンドの旅行消費単価¹が高い。



世界の旅行ニーズの多様化

✓ 地域コミュニティの支援や新しいスポットの開拓が旅行のトレンドに。



出典：香川県「令和5年度 高松空港利用状況について」（左上図）

観光庁「インバウンド消費動向調査 2024年 7～9月期」（左下図）、「令和5年度観光白書」（右図）

（右図について、上2問はBooking.com「Sustainable Travel Report 2023」、下4問はAmerican Express Travel「2023 Global Travel Report」に基づき観光庁作成）

注1：「Sustainable Travel Report 2023」は世界の35か国・地域の33,228人を対象として2023年2月に実施

注2：「2023 Global Travel Report」は日米豪等7か国の年1回以上飛行機を利用して旅行をする人を対象として2023年2月に調査実施

1：旅行消費単価は、インバウンド1人当たりの支出（旅行中支出又は旅行支出）です。

2：日本、米国、カナダ、メキシコ、オーストラリア、インド及び英国の7か国が対象となっています。

地域固有の魅力を育て、発信する

まんのう公園は、満濃池や、四国ならではの魅力を発信する拠点となり、地域とともに発展していくことを目指します。
また、観光・旅行形態の多様化など、時代の変化を地域の人々と一緒に捉え、新しい公園の在り方を模索していきます。

「観光・旅行形態の多様化」に対応して、まんのう公園が果たすべき役割

千三百年続く満濃池の 歴史と文化を承継

- およそ千三百年前に創築された満濃池の「ゆる抜き」は、古くから讃岐の初夏の風物詩となっている。
- まんのう公園に訪れる多くの人に、満濃池の歴史・文化を知ってもらうことで、満濃池と共に公園の価値を高める。



四国ならではの 魅力を発信

- 現代アートやお遍路さんなどの四国の観光資源と連携することで、国内外の観光客の誘致を促進する。
- 香川県やまんのう町と連携しつつ、伝統文化や特産品とコラボした新しいコンテンツの創出や、周辺観光施設との周遊利用の促進を図る。



新たな価値観・ ライフスタイルの提案

- 観光・旅行形態が多様化する中で、まんのう公園から、自然と調和した心を豊かにする時間の使い方など、新しい価値観やライフスタイルを提案・発信していく。
- 自然・歴史・文化と調和し、地域やそこに住む人々と一緒に多様な公園の楽しみ方を模索し、実践していく。

